

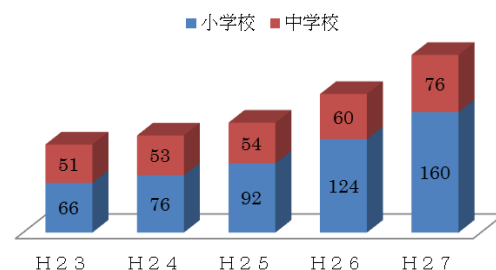
特集 「若手教員育成システム」の実施にあたって



「若手教員育成システム」は、教職2年目から4年目までの若手教員の資質能力の向上を目的に実施している本市独自のシステムで、今年度は81校236名の教員が対象です。このシステムの特徴は、若手教員がそれぞれの勤務校での実務を通して学んでいく、いわゆるOJTの方式をとっていることです。近年、右のグラフのとおり年々受講者数が増加しています。毎年各学校では工夫して若手教員の指導に当たっていただいております。

昨年、感謝いたします。昨年度末実施した2・4年目を対象とした若手教員育成システム OFF-JT の感想にも「校内サポーターをはじめとした先輩方に指導助言をいただけることは恵まれている。」と感謝の気持ちがつづられていました。今回のニュースレターでは、昨年度「校内サポーター」を務めてくださった先生方のアンケート回答からの効果的な取組と課題をご紹介します。今年度の「校内サポーター」の先生方が、各学校で「若手教員育成システム」を効果的に進める参考にしていただければと思います。

若手教員育成システム受講者推移



(1) 効果的だった取組

①「目標の設定」に関して

- ・研修展開シートで、年度当初に「研修の目標」・「具体的方策」を明確化させることで、本人の自覚が高まったと同時に本人の思いがサポーターにも伝わり、取組における刺激になった。
- ・研修の目標の中に、学級経営、学習指導など、校務分掌の進め方を入れたため、様々な取組ができた。
- ・本人の目標とする板書計画や学習形態などを写真で記録を取り、振り返りに役立てた。

②「コーディネート」に関して

1) 学年体制で実施

- ・サポーターだけでなく、学年体制で授業の展開、指導法、教材の工夫などについて考えたり、何度も話し合ったりと組織的な例示・教示が受けられるよう運営した。
- ・学年で協力して授業研究などを行ったことで、授業の質を高めることができた。

2) 全校体制で実施

- ・サポーターだけではなく、ブロックの先生方やそれぞれの校務分掌の先生方と協力して取り組む機会が多くなり、それにとまって先生方のチームワークが大変向上した。
- ・研究授業を進める上で、資料収集や板書の工夫等、学年だけでなく教科部会等でも話し合いをもち、全校体制で若手教員をサポートすることができた。
- ・学年主任やサポーターはもとより、全職員にその趣旨を理解してもらい、学校生活のあらゆる面でサポートできる体制を作ることができたので、指導技術等以外のメンタル面などのサポートもできた。
- ・校内での一人一授業や宇河地区人権教育研修会の課題等と合わせながら無理なく研修が進められるように計画を立てた。
- ・年度始めに研修シートの提出期限を決めるなどを校内で統一し、校内でも若手教員育成システムを作り、全職員に共通理解を図って全校体制で若手教員を育成できるようにした。
- ・職員全体で指導案検討会や授業研究会を行い、全員参加型のサポート体制をとった。校長をはじめ、多くの教員が観察して指導に当たったことは、授業力を向上させる上で効果的であった。
- ・若手教員をサポートすることで、中堅・ベテラン教員が持っている知識・経験を引き出しながら、中堅・ベテラン教員の存在感や成就感も引き出すことができた。
- ・若手教員を指導することで、組織としての一体化と教員の同僚性を再確認し、自己研鑽へとつながった。

③「公開授業」等に関して

<小学校>

- ・研究授業では同じ指導案に沿って授業を行い、それを参観してもらうことで客観的に授業を考えてもらうことができた。
- ・体育や生活科を合同で出来るように時間割を組み、児童の実態把握に努めたことにより、児童の反応が予想でき、指導案と一緒に考える上で役立った。
- ・若手教員に新採教員指導や教育実習生指導として模範授業を計画的に組み入れたことは、本人の指導方法を再確認する上で効果的であった。
- ・公開授業を校内研修時にあてたことで、多くの先生に授業を見ていただく機会が得られ、勉強になった。
- ・授業参観時には同じ内容にして、授業の構成や発問の仕方を一緒に考え、安心して授業に臨めるようにした。
- ・授業のねらいや展開の仕方などを共に考えた事は、授業力の向上を図る上で効果があった。

<中学校>

- ・研究授業について同じ教科の全教員に協力してもらい、授業を見て手直しをしながら指導案と一緒に作成した。
- ・「授業力向上」実践研究として1回目の授業公開は他教科の先生方に授業を参観してもらい、2回目は同教科の先生に参観してもらった。それぞれに良さがああり、若手にとって大いに勉強になった。

④「時間の確保」に関して

<小学校>

- ・学年が違うので、相談する時間を確保するために、職員室の席を隣同士にし、サポーターとして相談する時間を確保した。
- ・クラスをオープンにしていつでも授業を参観してもらえるようにした。

<中学校>

- ・TTで授業を組み、その都度授業を行いながら反省点を授業後に話し合った。

(2) 若手教員をサポートする上で心掛けたこと

- ・若手教員の創意・工夫をなるべく生かす方向で支援するよう心掛けた。
- ・若手教員が課題意識をもった時に助言するようにし、仕事に追われている感が少ないように心がけた。
- ・サポートというより児童指導や学級経営など一緒に取り組むという姿勢で行い、お互いよい刺激になった。
- ・同じ学年を担当しているので、日頃から児童の様子について情報交換を行うようにした。
- ・学年内で一緒に教材研究を行い、他の先生による師範授業や若手教員による事前授業を通して練り上げを行った。改善した指導案で校内研究授業を行い、参観した先生方に褒めていただき、「成功した」と感じるような体験を重ねられるよう心掛けた。
- ・気軽に話ができるような人間関係を築けるよう心掛けた。日常の声掛けを大切にし、積極的な関わりを持つように努めた。
- ・サポーターという立場にいたので、遠慮なく積極的に声をかけながら指導していくことが可能となった。

(3) 本システムの実施に当たって苦慮した点や課題について

- ・公開授業後の授業研究会の時間の確保が難しいため、普段の何気ない会話から状況を察知できるよう心掛けた。ちょっとした休憩時間や放課後の時間などに交わした会話も、学びや気づきを深めていくのに、効果的であった。
- ・若手教員の担任する配慮児童への支援については、OJTを機能させるために、学年主任や特別支援教育コーディネーターとの協力体制を図る必要がある。
- ・サポーターの授業公開もたいへん有効な手段だと思う。校内で授業を開くことが大切。
- ・校内研修に位置付けたり、学年会などで機会を見付けたりして、さらに全校体制として取り組めるようにしたい。
- ・若手教員へのアドバイスの仕方やタイミングの難しさを改めて感じた。常日頃からコミュニケーションをとり、若手教員が悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努めることが大切だと感じた。